

☆「聞く」ということ

昔、大学の教授からこんな話を伺いました。

「人の話を聞いて、その内容の80%を理解できる人は、とても聞く力がある人です。そして、聞いた話の内容の80%を相手にきちんと話せる人は、話す力がかなり優秀な人です。さらに、その話を聞いた人が内容の80%を理解できたら、その人もたいへん聞く力がある人だと思います。

しかし、伝わる内容は、 $80\% \times 80\% \times 80\% = 51.2\%$ なのです。」

つまり、聞く力と話す力が優秀な人同士でさえ、伝わる内容は半分になってしまう、というのです。

この計算が実際に当てはまるのかどうか分かりませんが、人間同士のコミュニケーションについて考えさせられる話だな、と思います。



このたび文部科学省から出された新しい学習指導要領には、「話し合い」「交流」が大切であることが示されています。全国的にコミュニケーションを重要視した授業が、どの教科でも進められています。

さて、人が生きていく上で、人とのかかわりは絶対に必要になりますし、コミュニケーション能力はもちろん大切ですが、その土台となるのは「聞くこと」です。「相手が何を言っているのか」「相手の伝えたいことは何か」が分からなければ、そもそも「話し合い」にはなりません。

まずは、「相手の話をきちんと聞くことができるか」が重要です。

「上手に話ができる人」は「上手に話を聞くことができる人」だと思います。「相手の言葉を大事にできる人」が「自分の気持ちを伝えることが上手な人」になるのだと思います。

人が話すのは、「伝えたいことがある」からです。相手が「何を伝えたいのか」を分かろうと真剣に聞こうとする人は、**人の気持ちを大切にできる人**です。

先生方も皆さんに伝えたいことがあります。授業でも、集会でも、一人の人に向かって話をするときでも、大切な伝えたいことがあるから話をするのです。

「聞くこと」を大事にしてみましょう。ただ、何となく聞くのでは意味がありません。ボーッとしていたり、違うことを考えていたりするのは、もったいありません。

何を話しているのかをじっくりと考えながら聞いてみましょう。



言葉は目に見えません。どんどん消えて無くなってしまいます。だからこそ、言葉を大切に受け止めよう意識してみましょう。

「聞くこと」を大切にすると、必ず「話すこと」が上手になります。「話し合い」が上手になります。そして、学力も今より伸びていきます。

☆やる気スイッチ

今、3年生が「夏草」（松尾芭蕉「奥の細道」の一部）の暗唱を一生懸命に取り組んでいます。授業時間の初めの10分程度や休み時間等を使って、覚えた文章を先生や代表生徒に確認してもらい、カードに印をもらっています。

先日の休み時間、暗唱の確認印をもらうための順番待ちで3年生の廊下がごった返していました。そんな中、ある野球部の生徒が私に声を掛けました。

「校長先生、僕は『握手』を暗唱できます！」

「握手」というのは、3年生が1学期に学習した「井上ひさし」さんの作品です。本来の暗唱すべき「夏草」ではないのですが、やる気に満ちあふれた輝いた目をしていたので聞くことにしました。本人から教科書を受け取り、文章を目で追いながら、彼が暗唱するのを聞いていました。

驚きました。彼は一言一句間違えずに、およそ1ページ分を暗唱してみせました。400字以上、原稿用紙1枚分以上の文章を見事に暗唱しました。

さて、本来の「夏草」ではないのに、なぜ関係の無いところを覚えたのでしょうか。とても気に入っている作品だったのかもしれませんが。突然、やってみたくなったのかもしれませんが。いずれにしても、しっかりと覚えていて驚きました。

彼には「やる気スイッチ」が入ったのでしょうか。誰でも、勉強や部活動で「よし、がんばろう！」とスイッチが入るときがあるかと思いますが、「夏草」の暗唱が彼のチャレンジ精神に火を付けたのかもしれませんが。

暗記をするというのは大変ですが、このように楽しみながら、やる気を持って出来ると力が発揮できるのだと思います。受験やテストに直接関係なくても良いのです。脳の中でいろいろな神経が刺激されて、つながっていなかった神経がつながったりして、きっと後で役に立つのだと思います。

なにより、自信が付きます。「やればできる！」という気持ちになります。もちろん、がんばっても出来ないことはあります。しかし、がんばらなければ、チャレンジしなければ、何も起こりません。

暗唱に限らず、好きな教科の勉強で「何か面白そうだな」「もう少し知りたいな」「よし、やってみよう！」とチャレンジしたり、調べてみたりすると意外に楽しいかもしれません。

宿題が出ているときは大変かもしれませんが、スマホやゲームの時間を減らしたら、できるんじゃないかなあ。



☆SNSに関わる犯罪被害

先日、警察の方のお話を聞く機会がありました。その中で、「SNSに関わる犯罪で被害に遭った18歳未満の青少年の数が、全国で1,811人にのぼる」と伺いました。昨年の被害数は1,813人で、ほぼ変わりません。特に、重要犯罪（殺人、強盗、放火、誘拐、強制わいせつ等）が増えているそうです。

SNSは全国どこの人とでもつながることができます。お家の人知らない間に、取り返しの付かないことになってしまうこともあるのです。皆さん自身が気を付けるのはもちろんのこと、心配なことがあったら、必ず大人（お家の方や先生）に相談してください。

